

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●夏競馬各地のリーディングジョッキーが決まる

9月4日(日)をもって夏競馬が終了しました。札幌では1回札幌・2回札幌で計22勝をあげた横山武史騎手(美浦・鈴木伸尋厩舎)が2年連続2回目となる開催リーディングを獲得。新潟では2回新潟・3回新潟で計19勝をあげた戸崎圭太騎手(美浦・田島俊明厩舎)が自身5回目となる夏の新潟競馬リーディングジョッキーとなり、小倉では3回小倉・4回小倉で計22勝をあげた松山弘平騎手(栗東・フリー)が昨年に続いて夏の小倉競馬リーディングジョッキーに輝きました。

●サマー2000シリーズはチャンピオン該当馬なし

9月4日(日)に行われた新潟記念(GⅢ)をもって、本年のサマー2000シリーズが終了しました。第4戦・札幌記念(GⅡ)を制して12ポイントを獲得したジャックドールが最上位となったものの、「合計得点が13点以上」の規定を満たさなかったため、シリーズチャンピオンは「該当馬なし」となりました。

●ファインルーージュの競走馬登録抹消

2021年紫苑S(GⅢ)などの勝ち馬ファインルーージュ(牝4歳/美浦・木村哲也厩舎)は、8月5日(金)付で競走馬登録を抹消されました。JRA通算成績は10戦3勝で、今後は北海道安平町のノーザンファームで繁殖馬となる予定です。

●ゼンノロブロイが死亡

9月2日(金)、北海道新冠町の村上欽哉牧場にて種牡馬として供用されていたゼンノロブロイ(牡22歳)が、心不全のため死亡しました。2003年にデビューしたゼンノロブロイは、2004年に天皇賞(秋)(GⅠ)、ジャパンカップ(GⅠ)、有馬記念(GⅠ)を制して同年のJRA賞最優秀4歳以上牡馬および年度代表馬を受賞するなど、JRA通算19戦7勝・海外1戦0勝の成績を残して引退。種牡馬としてはオークスを勝ったサンテミリオンやジャパングレートダービー勝ち馬マグニフィカなどを出しています。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●北海道のコスモイグロークがすずらん賞(札幌)に優勝

すずらん賞(2歳オープン、9月4日、札幌)に挑んだ8番人気の北海道所属馬コスモイグローク(牡、父ジョーカブチーノ)は、後方から外を回って追い上げ、ゴール前で差し切り勝ちを収めました。

●船橋の森泰斗騎手がゴールデンジョッキーC(園田)に優勝

9月7日に園田で全国から通算2000勝以上の騎手を集め、3レースのポイント制で争われたゴールデンジョッキーCは、船橋の森泰斗騎手が優勝。JRAの岩田康誠騎手(栗東)は第4位、福永祐一騎手(栗東)は第6位、戸崎圭太騎手(美浦)は第11位でした。

●ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド大井の結果

2022ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド大井は9月6日に行われ、第1戦は仲原大生騎手(大井)、第2戦はこれが生涯初勝利となった水沼元輝騎手(美浦)が制しています。

●ガルボマンボが黒潮菊花賞で高知2冠達成【各地の主要3歳重賞】

黒潮菊花賞(8月28日、高知、1900^円)は、単勝1.7倍で断然人気の高知優駿の覇者ガルボマンボ(牡、父ガルボ)が、3番手から4コーナー前で抜け出して4馬身差で楽勝。黒潮盃(8月17日、大井、1800^円)は、8番人気の伏兵エスポワールガイ(牡、父エスポワールシチー)が逃げ切って初の重賞タイトルを獲得。やまびこ賞(8月21日、盛岡、1800^円)は、2番手から4コーナーで先頭に立った6番人気のアップテンベスト(牝、父エスポワールシチー)が、愛知在籍時の梅桜賞、スプリングCに次ぐ3度目の重賞制覇を果たしました。
※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1パシフィッククラシック～フライトラインが大勝

現地9月3日にアメリカ・カリフォルニア州のデルマー競馬場で行われたG1パシフィッククラシック(3歳上、ダート2000^米)は、単勝1.3倍の圧倒的な1番人気に推されたフライトライン(牡4歳、父タビット、J.サドラー厩舎)がF.ブラ騎手とのコンビで向正面で先頭に立つと、そこから大きく差を広げて、最後は流す余裕を見せながら今年のG1ドバイワールドC勝ち馬カントリーグラマーに19馬身1/4差をつけて大勝しました。勝ちタイムの1分59秒28は19年前のこのレースで、キャンディライドがマークしたコースレコードに0秒17差に迫るものでした。フライトラインはこれで5戦5勝。G1は昨年12月のマリブS(ダート1400^米)、今年6月のメトロポリタンH(ダート1600^米)、そして今回と3連勝で3勝目です。

●G1バーデン大賞～メンドシーノがG1初制覇

ドイツのバーデンバーデン競馬場で9月4日に行われたG1バーデン大賞(3歳上、芝2400^米)は、R.ビーヒュレク騎手を背に4頭立ての最後方でレースを進めたメンドシーノ(牡4歳、父アドラブルーク、S.スタインバーグ厩舎)が、昨年の凱旋門賞馬で、このレースの連覇がかかっていたトルカータータツソをアタマ差かわして優勝。重賞初制覇をG1で飾りました。